

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月25日

協議会名: 都留市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急バス株式会社	都留市循環線 都留市立病院～都留市駅 谷村・三吉地域	利用促進施策として学生や高齢者への周知活動を実施した。また、新たな利用者の確保に向けた路線の延伸における協議を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 年間利用者目標数13,240人に対し、9,129人であった。	学生等の新たな利用者に対する利用促進を図りながら、持続可能な地域公共交通に向けた施策を、事業者と連携しながら実施していく。
富士急山梨ハイヤー株式会社	東桂線 東桂・谷村地域	利用促進施策として学生や高齢者への周知活動を実施した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1台あたりの平均乗車人数の目標1.8人に対し、1.3人であった。	持続可能な地域公共交通に向けた施策を、事業者と連携しながら実施していく。
富士急山梨ハイヤー株式会社	盛里線 禾生・盛里地域	新たな利用者の確保に向け、商業施設へのアクセスといった施策を多角的に検討した。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1台あたりの平均乗車人数の目標1.8人に対し、1.4人であった。	持続可能な地域公共交通に向けた施策を、事業者と連携しながら実施していく。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>商業施設へのアクセスや周知活動などの利用促進の取組は評価できるが、年間利用者及び1台あたりの平均乗車人数の目標数は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>➤事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。</p> <p>➤「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p> <p>➤アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>					
-------------------------	---	--	--	--	--	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月30日

協議会名: 中央市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山梨交通株式会社 「中央市役所本館～シルクふれんどりい線」	「中央市役所本館～JR小井川駅～山梨大学医学部附属病院～中央市役所玉穂支所～JR東花輪駅～中央市役所豊富支所～シルクふれんどりい」間を運行	<p>感染症対策を継続実施し、利用者への不安解消に努めた。また、市内施設へのコミュニティバス時刻表配布、バス車内へのポスター掲示を継続して行い、市民に親しみを持ってもらえるよう努めた。</p> <p>本市への転入者や、高齢者関係部署と連携しコミュニティバスの周知を図った。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>目標値10,000人に対して約87%の達成率となり、目標達成に至らなかった。</p> <p>【原因】 新型コロナウイルスの影響による利用者の減少から、一定の回復はあったものの、時期的な感染拡大等により結果的には前年度と同等程度の利用者数となった。</p> <p>【効果】 利用実態から、高齢者を中心とした自身で交通手段を有さない交通弱者の日々の通院・買い物等生活に密着した移動手段となっており、市内各所へのアクセス向上、幹線系統へ接続できる交通手段として機能している。</p>	<p>令和5年度の市公共交通計画策定にむけた、住民、利用者ニーズの把握、関係機関へのヒアリング、公共交通の事例収集、本市における公共交通の課題・問題の整理等を行っており、本事業においても、調査結果を踏まえ利便性の向上に努める。</p> <p>また、市イベントにおける啓発活動や、市内総合病院やショッピングセンター等への時刻表配布、小中学生のコンクール入賞作品の車内掲示を継続して行い、より親しみを持ってもらえるよう努めていく。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>感染症対策を実施していた点は評価できるが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、目標人数は未達成となった。引き続き、目標達成に向けて取り組んでいただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ▶「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ▶アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。 				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月20日

協議会名: 笛吹市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者:山梨第一交通(株) 運行系統:笛吹市デマンドタクシーみさかルート	御坂町若宮地区(旧若宮公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)	・前年度の二次評価では、持続可能な地域公共交通を目指すうえで、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくこと、そのための適切な運賃、金額の設定、移動の目的をつくることなどの検討について指摘されている。指摘を含めた抜本的な交通網の見直しを行うべく、笛吹市公共交通再編事業として、次年度の計画に反映している。	●事業が計画に位置づけられたとおりに実施されている。 ・欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。 ・情報提供については、若者の利用者増を目的として、運行地域の中学3年生を対象に、利用ガイドの配布・周知を実施した。 ・前年度に引き続き、安心してデマンドタクシーを利用してもらえるよう、新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、HPでPRを行った。 ・昨年度より電子申請による利用者登録受付を開始しているが、より申請しやすいようHPから直接登録ページへアクセスできるようにした。 ・また、設定した事業だけでなく、前年度の二次評価結果を反映した取り組みとして、利用者を含めた市民へ運賃設定に対するアンケートを実施し、適正と考える金額の模索を行った。	●事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。 ■1日あたり目標乗車人数11.5人に対し、7.4人 ■目標収支率8.2%に対し、6.2% ・乗車人数、収支率ともに、目標を達成できなかった。 ・引き続き、新型コロナウイルスの影響があり利用者数、目標収支率は前年と比べ減少しており、目標を達成できなかった。	前年度の二次評価からサステナビリティ確保のための適切な運賃、金額の設定について指摘されており、今年度は市民の適正と考える金額の調査を行った。この結果をもとに適切な運賃の検討を進めていくが、利用者が伸び悩む現状、週複数回の利用者などへの生活の足として役割から、検討は慎重に行う。 ・設定した目標に対し、利用者が増えず、達成できない状況があり、これまではJRとの乗り継ぎを意識した利便性の向上を図ることで、外出のしやすさを追求してきたが、利用者増のためのより明確な移動目的の創出を関係部署と連携し、検討する。 ・また、バス、タクシー事業者への聞き取りをしたところ、新型コロナウイルスの影響は少しずつ減ってきているが、これを機に公共交通から自家用車へ移動手段を切り替えた利用者も一定数おり、現状はコロナ前の7割程度の利用者数で、以前ほどの利用者に戻らない可能性を示唆していた。この現状を踏まえ、これからの利用者増に対する施策と目標設定を再検討する必要がある。
事業者:日之出観光自動車(株) 運行系統:笛吹市デマンドタクシーふじみルート	石和町富士見地区(河内公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)～石和町山岸地区(山岸公民館)			●事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。 ■1日あたり目標乗車人数14.0人に対し、12.7人 ■目標収支率11.1%に対し、7.7% ・乗車人数、収支率ともに、目標を達成できなかった。 ・引き続き、新型コロナウイルスの影響があり利用者数、目標収支率は前年と比べ減少しており、目標を達成できなかった。	

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>前年度の評価内容を次年度の計画に反映するなどの取組は評価できるが、目標乗車人数及び目標収支率は未達成であった。引き続き、目標達成に向けて取り組んでいただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>➢「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p> <p>➢アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月10日

協議会名: 上野原市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社駅前タクシー	第1.1地域(桐原方面)	※令和4年2月28日の評価結果を踏まえ、計画等に反映した内容を記載 ◆利用実態のデータ収集・分析を継続実施	A ◆利用者数:1,736人/年 :7.14人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C 【目標】 ◆令和元年度(平成30年10月~令和2年9月)と令和4年度(令和3年10月~令和4年9月)における各系統の利用者数を比較し、その減少率に応じて令和4年度をベースに5%~10%増を目標値とする。 【達成状況】	◆今後は、ワクチン接種が進んできたことで日常生活以外にも移動頻度の回復が想定されるが、各分野での新生活様式の定着に伴う人流減少を考慮すると急激な利用者の増加は見込み難い。 新型コロナウイルスの感染拡大は未だ終息の目処もたっていない状況であるため、感染症対策など継続して実施することにより新型コロナウイルスとの共生を図りつつ、多くの市民に利用してもらうために事業のPR等を継続して実施する。
富士急バス株式会社	第1.2地域(西原方面)	◆上記のデータを基に利便向上策の検討及びPR等を実施	A ◆利用者数:1,886人/年 :7.76人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C ◆すべての系統において未達成であった。 ○第1.1地域(桐原) 目標7.42人 実績7.14人 ○第1.2地域(西原) 目標8.01人 実績7.76人 ○第2地域(大鶴・甲東) 目標7.40人 実績7.15人 ○第3地域(大目・巖) 目標12.65人 実績12.35人 ○第4地域(島田・秋山) 目標9.68人 実績9.29人 ○全地域 目標48.99人 実績43.70人	
上野原タクシー株式会社	第2地域(大鶴・甲東方面)		A ◆利用者数:1,737人/年 :7.15人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C 【分析】 ◆利用方法等を掲載したチラシの回覧、停留所の変更等啓発活動や利便性を高める取組を実施し、利用者の増加を図ったが、令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響から、利用者の利用回復には至っていないのが現状である。年間利用者は、昨年よりも減少しており、運行開始以降で最も低い利用率となっている。	
有限会社四方津交通	第3地域(大目・巖方面)		A ◆利用者数:3,002人/年 :12.35人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。		
有限会社島田交通	第4地域(島田・秋山方面)		A ◆利用者数:2,257人/年 :9.29人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。		

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利便向上策の検討及びPRなどの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。引き続き、利便性の向上に取り組んでいただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ➢事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ➢「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ➢アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月26日

協議会名: 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
甲州タクシー(株)	甲州市塩山地域(松里・玉宮・共通(市街地)エリア)を運行	昨年度に引き続き、利用者の変容等の確認、利用状況集計を実施した。 令和3年度の事業評価も踏まえ、交通サービスの目的を明確にし施策の検討を行うため利用実態調査を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B 利用者数 【区域】 【目標】 【実績】 松里エリア 4,069人/年 2,382人/年 玉宮エリア 3,136人/年 2,448人/年 共通エリア 3,039人/年 2,524人/年	利用実態調査で得られた住民移動ニーズを集計し、今後事業者・関係団体等と連携して運行計画の検討・調整を図る。 また、高齢化した住民や運転免許証を返納した方等の新規利用の対象となる人は増加傾向であるため、利用促進・利用方法の広報活動等を行い新規利用者の確保に努める。
塩山タクシー(株)	甲州市塩山地域(神金・共通(市街地)エリア)を運行	昨年度に引き続き、利用者の変容等の確認、利用状況集計を実施した。 令和3年度の事業評価も踏まえ、交通サービスの目的を明確にし施策の検討を行うため利用実態調査を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	B 利用者数 【区域】 【目標】 【実績】 神金エリア 2,882人/年 2,829人/年 共通エリア 2,831人/年 2,519人/年	利用実態調査で得られた住民移動ニーズを集計し、今後事業者・関係団体等と連携して運行計画の検討・調整を図る。 また、高齢化した住民や運転免許証を返納した方等の新規利用の対象となる人は増加傾向であるため、利用促進・利用方法の広報活動等を行い新規利用者の確保に努める。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>利用実態調査などの取組は評価できるが、目標利用者数は未達成となった。引き続き、利用促進の向上に取り組んでいただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ➤「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ➤アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 富士川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社青柳タクシー	平林エリア(路線定期運行) いきいきかん～平林	アンケートにより利用者の要望を把握し、運行実績と合わせて、運行時間や便数等の見直しを検討した。また、役場窓口等において路線運行の利便性や安全性の周知に努めた。	A 計画通り事業を実施した。	C 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64.4人/日・満足度95.5%は目標未達成。	利用実績の向上に向け、広報誌やチラシ等による周知を行うとともに、利便性を高めるため運行時間や便数の検討を行う。
有限会社青柳タクシー	平林エリア(区域運行) 増穂地区	高齢者向け行事などの際にデマンド交通の制度や利用方法の周知を行った。福祉部門と連携し、交通弱者の把握とデマンド交通の利用促進を進めた。	A 計画通り事業を実施した。	C 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64.4人/日・満足度95.5%は目標未達成。	利用実績の向上に向け、広報誌やチラシ等による周知で新規登録者の拡大を図るとともに、利便性を高めるため運行時間や便数の検討を行う。
有限会社豊栄タクシー	小室エリア(路線定期運行) いきいきかん～南小前	アンケートにより利用者の要望を把握し、運行実績と合わせて、運行時間や便数等の見直しを検討した。また、役場窓口等において路線運行の利便性や安全性の周知に努めた。	A 計画通り事業を実施した。	C 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64.4人/日・満足度95.5%は目標未達成。	利用実績の向上に向け、広報誌やチラシ等による周知を行うとともに、利便性を高めるため運行時間や便数の検討を行う。
有限会社豊栄タクシー	小室エリア(区域運行) 増穂地区	高齢者向け行事などの際にデマンド交通の制度や利用方法の周知を行った。福祉部門と連携し、交通弱者の把握とデマンド交通の利用促進を進めた。	A 計画通り事業を実施した。	C 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64.4人/日・満足度95.5%は目標未達成。	利用実績の向上に向け、広報誌やチラシ等による周知で新規登録者の拡大を図るとともに、利便性を高めるため運行時間や便数の検討を行う。
有限会社鵜沢タクシー	十谷エリア(区域運行) 鵜沢地区	アンケートにより利用者の要望を把握し、運行実績と合わせて、運行時間や便数等の見直しを検討した。また、役場窓口等において路線運行の利便性や安全性の周知に努めた。	A 計画通り事業を実施した。	C 高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。 利用実績64.4人/日・満足度95.5%は目標未達成。	利用実績の向上に向け、広報誌やチラシ等による周知を行うとともに、利便性を高めるため運行時間や便数の検討を行う。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	アンケートによる利用者の要望を把握し運行実績と合わせて運行時間や便数等の見直しの検討や、満足度の目標を達成されたことは評価できるが、利用実績は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ➢事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応している。 ➢「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ➢アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月26日

協議会名: 身延町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山梨交通(株) (株)身延タクシー (有)中富タクシー	・運行区域 身延地区 下部地区 中富地区 一部町外(市川三郷町岩間)	前回、未達成の項目を中心に目標を設定	A 計画通り、適切に実施された。	B ・乗合タクシー利用者数 目標: 18000人 結果: 15906人 新型コロナウイルス感染防止のため外出を自粛する利用者がいたと思われる。目標は達成できなかったが、町内の人口が減少しているなか利用者数の大きな減少はないため、地域の足として定着していると考えられる。	・民間路線バス、町営バス等と連携し、より利用しやすい公共交通を目指す必要がある。 ・住民に運行目的、利用方法等をより一層理解してもらうため、広報等を充実させる必要がある。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数の目標は未達成となった。引き続き、利用しやすい公共交通を目指した施策を検討していただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ▶「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ▶アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月10日

協議会名: 南アルプス市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山梨交通株式会社	1号車 芦安線 市立美術館～徳洲会病院～白根支所～御勅使～芦安	電話や窓口で問合せがあった際にバスの乗り方、時刻表の見方を周知する説明を行った。また体験乗車を行い利用者の増加を促進するための取り組みを行った。	A	年間利用数32,330人で、目標人数の31,286人を上回った。市民や利用者の意見・要望を取り入れ、時刻変更を行った成果が利用の増加に繋がった。	バスの乗り方、時刻表の見方が分からない市民が多いため、今後も継続的にバスの乗り方、時刻表の見方を周知する説明会や体験乗車等の広報活動を行う必要がある。
山梨交通株式会社	2号車 八田・白根線 市立美術館～白根支所～徳洲会病院～白根Aコープ～八田支所～樹園		A		
山梨交通株式会社	3号車 若草・甲西線 市立美術館～藤田～やまなみの湯～甲西Aコープ～甲西支所～秋山～市立美術館		A		
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	体験乗車等の利用者増加に対する取り組みを実施し、前年度から引き続き、目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ➤「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月16日

協議会名: 甲府市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急バス株式会社	「上九一色・中道地区コミュニティバス線」 古閑町～市立甲府病院経由～南甲府駅	当該交通サービスがどういった目的のためのサービスなのかを今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたいとの評価結果であった。 このことを踏まえ、地域住民の通院や買い物といった需要に対応するため、バス利用者が商品割引サービスを受けられる「バス利用お買い物手形事業」の継続実施や、「甲府城南病院」バス停の病院正面入口付近への移設、沿線住民への時刻表等チラシの全戸配布によるPRなど、当該コミュニティバスの利便性の向上に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった 目標:①1回当たりの利用者数4.2人以上、②年間利用者数4,200人以上、③フィーダー系統の1回当たりの利用者数3.5人以上、④フィーダー系統の年間利用者数2,000人以上 実績:①3.10人、②3,306人、③2.71人、④1,574人 分析:上九一色公共交通協議会において、高い努力目標として事業を遂行すべきとの判断の中で目標を設定しており、コロナ禍の影響による外出控えなどにより、利用が減少したことが主な原因と考えられる。	・地区住民の高齢化等を考慮し、長距離の歩行が困難な方も利用しやすくなるよう、運行経路の見直しやバス停の新設等を検討する。 ・引き続きバス利用者が商品割引サービスを受けられるよう、「バス利用お買い物手形事業」の継続に向けて関係各所と調整を行うとともに、利用促進のためのPRに努める。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	バス利用者への商品割引サービスや利用向上のためのバス停の移設などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 >事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 >「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 >アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月23日

協議会名: 韮崎市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 韮崎タクシー	運行系統: 竜岡線 (韮崎市立病院～韮崎駅～竜岡公民館) 【車両減価償却費等国庫補助金】	新たな利用者の獲得及び利便性の向上を目的に、新規自由乗降区間を設定。	A 計画通り事業は適切に実施された	A 新型コロナウイルスの影響を受け、目標値である運行1回当たりの乗車人数2.2人/回に対して、実績値は2.8人/回となり目標を上回った。	新たな規利用者の獲得及び全体的な利用促進を図る、停留所(自由乗降等)の見直しや運行手法の抜本的な見直しを検討する。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>新規自由乗降区間を設定するなどの取組により乗車人数の目標を達成されたことを評価する。引き続き、利用促進に取り組んでいただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <p>➢「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p> <p>➢アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>
-------------------------	--